

◆台風や晩秋の気配が作品にあわられている。さて、結城文さんが今号を最後に無二の会「展景」を退会することになった。主宰が布宮みつこのときから同人としてのお付き合いで、一本の柱が抜けるような寂しさがある。しかし、人生の選択にはさまざまな場面があるわけで、結城さんの「いつのまにか間口が広がって、年齢的なこともあり少しずつ整理をしてゆこうと思っております」ということは十分に理解できる。これからはお互いには場は違えども、それぞれの場で精進していくしかない。短歌に関して、また短歌の国際的な動きについても多くを学ばせてもらった。結城さん、長い間ありがとうございました。

◆少し体調を崩して検査を受けた。悪いものはないと医師にいわれ、ホッとした。週末からのすべでの予定をキャンセルしたのだが、身体あつてのものだと実感した次第。

◆軽自動車の試乗に申し込んでみた。当方が山形に引っ越してきたのは二〇一一年の十二月。大震災の後だったため、中古の軽自動車のほとんどが山形から宮城県や岩手県にいつてしまったと聞いた。車のことを何も知らないまま、普通車のコンパクトカーを求めたのだった。が、近ごろの「軽」は大きさや強度、走りもずいぶん改良されているというので興味をもった。乗ってみたら、加速もわりあい力がある感じ。センターラインをはみ出すと警告する、障害物があるのに前進や後進をすると自動で止まる等、安全の機能が付いていた。今すぐ車を替える予定はないが、やはり体

験することは大事だ。さまざまな車に乗ってみて、はじめて違いに気づくのだと思う。

◆嘘が堂々とまかり通る世の中のような。折にふれて思い出すのは、叔母・布宮みつこの言ったことば。「それは枝葉えだはのことだよね」「人生、正々堂々」。若いときは失敗も多い。しかし、人生の半ばを過ぎてからは別だろう。掛けてもらったことばのありがたみが、いまさらながらよく分かるのである。

(布宮慈子)

# muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。

季刊 展景 88号

二〇一七年十二月二十一日 発行

編集・発行人 布宮慈子

制作 スタジオ・マージン

無二の会「展景」発行所

山形市上町二一―一七―二〇一

[info@muninokai.com](mailto:info@muninokai.com)